

2025 年度既修者認定試験（商法）出題趣旨

本問は、代表取締役の代表権の範囲とその制限を中心に、いわゆる代表取締役の専断的行為の効力について、その理解を問うものである。

本件取引は、代表取締役副社長である B が甲社を代表して（＝甲社に法的効果を帰属させるものとして）取引を行ったものである。このことを前提に、B が単独で取引を決定できる金額を 1000 万円とする甲社の内部的な権限の制限の意義、本件取引は客観的には B が甲社のために行ってはいるものの主観的には B 自身の利益を図る目的で行われていること、甲社の定款所定の事業目的との関係についてそれぞれ検討したうえで、取引の安全の確保、善意の第三者（取引相手方含む）の保護のあり方について、学説あるいは裁判例を踏まえて理論的かつ説得的に結論を導くことが求められる。